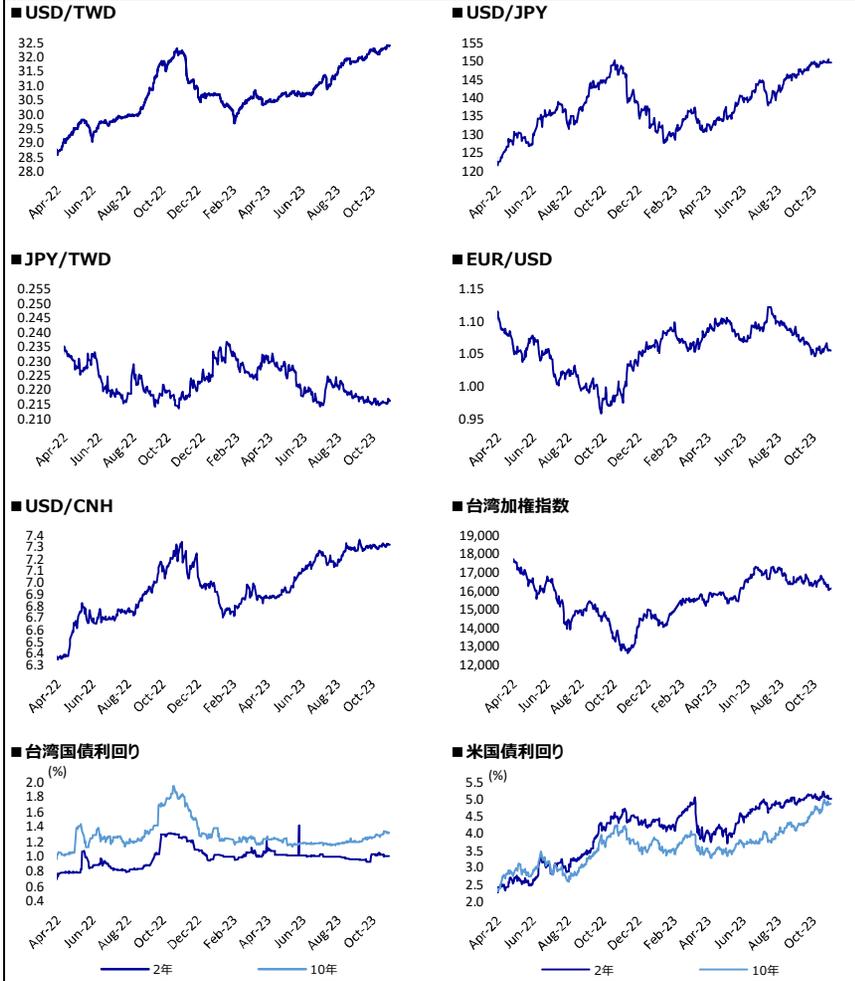


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初10/23は32.320でオープン後、米金利上昇を嫌気し台湾株が下落を続けていることからリスクセンチメントが悪化。台湾ドル売りが優勢に。しかし32.40の節目を目前に上値を抑える動きが見られ、32.30台後半で揉み合う展開。10/24は前日米10年金利が5%を付けた後、急速に低下したことを受けギャップダウンし、32.280でオープンするも、海外投資家による投資資金引き上げが継続し、台湾ドル売りが優勢となり32.3台まで戻した。10/25は前日米10月PMI景況感指数が市場予想を上回ったことで、米金利上昇が再開し、ドル買いが優勢に。32.40を目前に再度上値を押さえる動きが入り、32.3台後半で揉み合いとなった。10/26は前日米9月新築住宅販売戸数が市場予想を上回る結果となったことで、米10年金利が再度5%を試す展開となると、台湾株下落が進み、台湾ドル売りが優勢となり一時32.482まで上昇。10/27は米金利上昇が一服する中、上値重く推移。最終的には前週比0.3%ドル高台湾ドル安の32.425で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は725.8億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は下落。週初10/23は149.83でオープン後、米金利が上昇する中、ドル買いが進む局面も見られたものの、為替介入への警戒感から150円付近では売り戻され上値重く推移する展開。著名投資家から米経済について悲観的な見立てが聞かれたことで米金利が低下に転じるとドル売りが優勢となり149円台半ばまで下落。10/24は米10月PMI景況感指数が堅調な結果となったことで米金利が上昇に転じ、ドル買い優勢となり150円目前まで上昇。10/25は米9月新築住宅販売戸数が堅調な結果となったことで米金利上昇が加速すると、150円台前半まで上昇。10/26は米10年金利が上昇し再度5%を試す中、ドル買いが優勢となり一時150.78まで上昇し、2022年10月来の高値を更新。しかし海外時間に米第三四半期PCEが予想を下回る結果となると、米金利は短期中心に低下しドル売りが優勢な展開となり、150円台前半で推移。10/27は鈴木財務相から為替に対し「強い緊張感をもって万全の対応を行う」などの発言が聞かれたことで為替介入への警戒感が再燃し、円買いが加速。最終的には前週比0.1%ドル安円高の149.65で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：32.250-32.450
今週は上昇を見込む。米経済に腰折れの兆しが見られない状況下、米金利には上昇圧力がかかりやすく、ドル台湾ドルは上昇が続きやすいであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：149.00-151.00
今週はボラタイルな展開を見込む。10/31に日銀金融政策決定会合、11/1にFOMCを控えており、金融政策の先行きに関する思惑で上下に振れやすい展開が見込まれるであろう。

今週の予定

10/30 (MON)	米10月ダラス連銀景況観指数
10/31 (TUE)	日銀金融政策決定会合、台湾第三四半期GDP
11/1 (WED)	FOMC、台湾10月PMI、米10月PMI
11/2 (THU)	米9月耐久財受注
11/3 (FRI)	米10月雇用統計

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。